



ハネウエル居場所ハウス

大船渡市末崎町字平林 54-1 / TEL : 0192-47-4049 / 運営日時 (6月中) : 無休 10:00~17:00

「ハネウエル居場所ハウス」は、2011年3月11日の東日本大震災の被害を受けた地域の復興のため、そして高齢者の支援をするために創られた場所です。

高齢者は、若い世代を支える存在としてではなく、「面倒をみてもらわないと生きていけない」災害弱者としばしばみなされます。こうした状況は、被災地だけに限ったことではありません。現代社会において、地域生活から切り離された高齢者は、異世代との交流の機会と、社会に貢献する役割を失いつつあります。このことは、若い世代にとっても高齢者がもつ大切な知恵や経験を継承できないという状況を生んでいます。

ワシントン DC の非営利団体「Ibashi」は震災1年後に被災地を訪れ、震災が起きた時の逃げ場や、生き延びる手段を若者たちに教えて、多くの命を救った高齢者

のエピソードを多数耳にしました。また、被災者の方々の「国内外から寄せられた多くの支援に心から感謝していると同時に、支援を受けるだけでは申し訳ないし辛く感じる。できればその恩義をお返ししていきたい。でも、どうしたら良いかわからない。」という声も耳にしました。

こうした経験をふまえ、「Ibashi」は長期的な視点からの復興を通じて、地域の高齢者を支援させていただきたいと考え、「ハネウエル居場所ハウス」のプロジェクトを提案しました。「ハネウエル居場所ハウス」は、震災を生き延びた高齢者を勇気づけ、地域の復興の過程で「頼りにされる存在」として地域の方々をつなげる役割を担って欲しいという願いから生まれました。



「Ibashi」が大切にしている8つの理念

- ・高齢者が知恵と経験を活かせる場所
- ・あくまでも「普通」を実現するための場所
- ・地域の人たちがオーナーになる場所
- ・地域の文化や伝統の魅力を発見できる場所
- ・様々な経歴・能力をもつ人たちが力を発揮できる場所
- ・あらゆる世代がつながり、学び合える場所
- ・ずっと続いていく場所
- ・完全であることを求めない場所

■プロジェクトの経緯

2012年02月13～18日：大船渡市、陸前高田での被災高齢者への聞き取り調査

2012年05月08～18日：ビジョンワークショップ

2012年08月07日：敷地決定

2012年07月09～13日：建築デザイン、メニューワークショップ

2012年09月17～21日：コミュニティデベロップメントのワークショップ

2012年10月24日：「ハネウエル居場所ハウス」起工式

2012年10月25日：「自分にもできる」ワークショップ

2012年12月07日：ボランティアとして具体的にできることについてのワークショップ

2013年03月01日：「ハネウエル居場所ハウス」の運営団体、NPO法人「居場所」創造プロジェクト設立

2012年05月08日：ボランティアとして具体的にできることについてのワークショップ

2013年06月13日：「ハネウエル居場所ハウス」オープン



「ハネウエル居場所ハウス」は専門家が創り上げる場所ではありません。「Ibashi」は「地域の方々の目線から、地域の方々と一緒に、地域の方々のための場所を実現する」ことを大切にしながらプロジェクトを進めてきました。

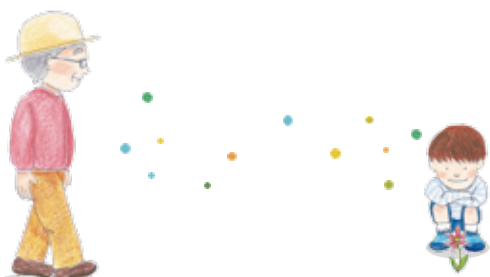
そのために、高齢者を中心とする地域の方々と共に、「ハネウエル居場所ハウス」の計画、デザイン、運営のあり方を考えていくためワークショップを重ねました。ワークショップでは、これまでの高齢者介護と「Ibashi」のアプローチの違いを話しあったり、地域において担える役割を考えるため「私にはこれができる」ことを紹介してもらったり、デザインやメニューについて意見交換をしたりしました。

また、「ハネウエル居場所ハウス」は、古民家を修復するというアプローチを敢えて選択しました。その理由は2つあります。一つは「時を重ねたものが持つ味わいと美しさと大切にしたい」こと。これは高齢者が「頼りにされる存在」であって欲しいという願いとも一致します。もう一つは「被災後に建ち並ぶ仮の建

物ではなく、地域の方々に地域の財産であるとプライドを持ってもらえる場所にしたい」ことです。

こうした経緯を経て、「ハネウエル居場所ハウス」は2013年6月に岩手県大船渡市末崎地区の仮設住宅近隣にオープンしました。オープン後の運営は、地域の高齢者を中心とする人々によって立ち上げられたNPO法人「居場所」創造プロジェクトが担います。

「ハネウエル居場所ハウス」は、建物を作っただけで終わるプロジェクトではありません。高齢者を中心とする地域の人々が、地域における自分の役割を見つけ、互いに頼りにし合いながら、ゆるやかなつながりを築いていくこと。「ハネウエル居場所ハウス」が、本当の意味での地域の“居場所”として根付いていくことに希望を寄せるとともに、これから世界的に広がる高齢社会における希望の光として、被災地から「人と人とのつながり」の大切さを発信していただけることを心から願っています。



Ibashi

P.O. Box 40242 Washington, DC 20016

(414) 690 - 1466

Emi Kiyota, Ph.D. (founder of Ibashi)

Contact us at: japan@ibashi.org

www.ibashi.org